

# 平成16年度事業報告

## 1 研究のテーマ

酒造用原料米の酒造適性に関する研究

## 2 研究の現況・進捗状況

### (1) 概要

酒米研究会は、原料米の酒造適性を総合的に研究すること及びその年に使用される原料米の性質を早期に把握し、その原料米に適した酒造管理を行えるようにすることを目的としており、酒米研究会総会及び酒米懇談会の開催並びに原料米の全国統一分析を中心として活動を行っている。また、本会は酒類製造技術者のみならず、育種・栽培関係者、米に関する研究者等、広く酒米に関心を持つものも会員として受け入れている。会員数は現在280名の個人と3機関からなっている。

酒米懇談会においては、原料米の開発に関する研究成果(2題)、農業分野へのIT技術の利用(1題)、コメの品質と気象条件との関係(1題)、コメデンプンの生合成機構に関する研究並びにコメ事業改革への取り組みに関する話題(1題)があり、様々な観点からの意見交換がなされ、参加者にとって大きな収穫であった。

原料米の全国統一分析は、15年度産米について例年どおり行い89品種279点の原料米の分析値及び予測される性質について関係者に報告した。

平成16年度産米については早期に収穫された30点の原料米について分析を行い、併せて造り初期における各支部の酒造概況を取りまとめて12月初旬に各支部に報告した。また、12月始めまでに各支部において分析が終了した44品種107点について取りまとめ、第1次の速報として関係者に報告した。

### (2) 研究会開催等

#### イ 平成16年度酒米研究会総会、第30回酒米研究会

開催月日 平成16年5月26日(水)

開催場所 東広島市西条栄町

東広島市中央公民館

配布資料:平成15年度事業報告、平成15年度決算及び16年度予算案、平成15年度産米の分析結果及び平成16年度産米の分析計画等

#### ロ 第28回酒米懇談会

開催月日 平成16年10月13日(水)

開催場所 財団法人東京都北区教育会館

講演内容 「JA グループの米事業改革について」(全国農業協同組合連合会 嵯峨宏通 先生)、「千葉県酒造好適米品種「総の舞」の開発」(千葉県産業技術支援研究所 星野徹也 先生)、「千本錦」の育成と醸造適性」(広島県立食品工業技術センター 末成和夫 先生)、「IT 技術を活用した農業の取り組み」(株式会社パスコ 石山 斉 先生)、「山田錦」の品質と気象条件との関係」(兵庫県立農林水産技術

総合センター 池上 勝 先生)、「コメデンプンの生合成機構の解析」(秋田県立大学 中村保典 先生)(詳細は、講演要旨集(送付済み)参照)。

出席者 56名

(3) 原料米全国統一分析

イ 研究会支部の状況

原料米全国統一分析に関しては、平成16年12月末現在で参加しているグループ数は試料の採取を依頼している機関を含めて27機関である。

ロ 平成15年度産米の分析

平成16年1月～2月に前年から引続き平成15年度産米の分析を行い、89品種279点についての分析結果を集計し、平成16年6月初旬に日本酒造組合中央会会長及び各支部に報告した。

ハ 平成16年度産米の分析

早期分析(0次分析)

平成16年度産米の性質把握のための早期資料とするため、早期に収穫された酒米30点の事務局で行った分析データ及び各支部より報告を受けた造り初期の酒造概況、気象及び収穫に関するデータとを合わせ、本年産米の早期予測(0次)として平成16年12月1日付で関係者及び各支部に報告した。

1次分析

平成16年度産米については、12月始めまでに分析の終了した44品種、107点について結果をまとめ、0次分析結果と合わせ平成16年度産原料米の性質を予報し、平成16年12月6日付で関係者及び各支部に報告した。

2次分析

2次分析までの結果については、6月上旬までに報告する予定。

(4) 刊行物発行等

・第28回酒米懇談会要旨集

(5) 研究連絡活動等

平成15年度酒造用原料米全国統一分析結果の送付

平成16年度酒造用原料米全国統一分析結果(0次)の送付

平成16年度酒造用原料米全国統一分析結果(1次)の送付